



議会と自治体

8 2021 No.280

都議選勝利を力に、総選挙での躍進
新都議 19人の手記

[鼎談] 比例で日本共産党を躍進させよ
はたやま和也 + 大平よしのぶ + 白川よう子

ジェンダー平等社会実現へ 改定綱領の
実践始まる 倉林明子

流域治水関連法成立と課題
嶋津暉之 / 磯部 作

文化・芸術 コロナ禍の支援策こそ 吉良よし子

コロナ禍をたたかう大阪の公務労働
小松康則

SDGsを考える ④
生物多様性 井田徹治

日本共産党中央委員会発行

公約実現、総選挙勝利へ

「五輪か命か」を問いかけて、 最多の票獲得

新宿区選出 大山とも子



今回の都議会議員選挙では、「五輪を優先するのか、命を優先するのか」という訴えが、日々説得力を増していったというのが実感です。

党支部や後援会のみなさんは、スーパードームや保育園の門前などいろいろなところでのスタンディングやビラの配布、また電話かけや「折り入って作戦」など奮闘しました。「宣伝カーのアナウンサーは初めて」という方も、何人も参加してくれました。

「支持を広げてください」とお願いした方が、「何人にも支持を広げた。選挙が終わってから、頼んだ人に報告にまわったよ。これが大事よ」とおっしゃいました。

本当に、頭が下がります。多くの人が自らのつながりをつうじて支持を広げてくださった、そのことがとてもよくわかる今回の選挙でした。

多くの出会いを結びつきに
深めて

いろいろな出会いがありました。ある夫さんが私の訴えを聞きに来てくれて、「本当は妻も聞きにきたかったけれど仕事でこれなくて、悔しかった」とのこと。その後、SNSで毎日の演説場所を見て、三回もご夫婦で聞きに来てくれました。

選挙が終わってから電話をかけたら、夫さんと話ができ、「妻は

コロナ禍で新聞をよく読むようになって、共産党がいい、というようになってきた」とのことでした。「共産党のことを知りたい、学習会はやらないのかしら」と話されていたとのことで、八月に学習会をすることになりました。同時に、「赤旗」日曜版を読んでもれることになりました。

他にも、ウーバーイーツの方や新人会社員の方など、「話を聞いてほしい」と相手から近づいてこられる方が多かったです。今回の特徴的な変化でした。もちろん、そのたびに話を伺う日程を決めて、あらためて詳しくお話を伺いました。

街頭演説の場所をSNSでお知らせしていたので、後半になるほど初めて聞きに来てくれたという方も増えてきました。

オリンピックとコロナ対策の矛盾が大きく、飲食店の方はもう崖っぷち、協力は運まず。学生さんもアルバイトのシフトが減らされ、家賃の督促状が来てしまった——こういうひどい話が少しも珍しくありません。

学童擁護の方が小学生から聞いてきてくれた話、こういうものです。「二年続けて運動会は中止、移動教室も修学旅行も諦めた。暑いのにプールは禁止。オリパラで陸上や水泳の競技を見るよ、みんなで思い切りプールで遊びたい。夏休みは、おじいちゃんやおばあちゃんのところまで過ごしたい」。子どもたちをこんな状況に追い込んでいる菅政権と小池都政。本当に一日も早く、子どもたちの当たり前の日常を取り戻してやりたい。それが、政治の責任、役割です。

十九人の都議団、早速行動します。日本共産党と立憲が共同すれば、議会招集権も行使できます。一致点で都政改革を進めていく、より民主的な都政、都議会を実現して、都民のいのちと暮らしを本気で守り抜けるよう、全力を尽くします。さらに、この首都東京から国政変革をめざし、総選挙での躍進をめざします。

*

(おおやま・ともこ)

*

公約実現、総選挙勝利へ

共同を広げ、つながり、2人区を勝ち抜く

文京区選出

福手ゆう子



前回都議選から四〇三三票積み上げ三万八一五票で、四年前九二一五票差の惜敗をのりこえ、文京の共産党の議席を復活させることができた。三万票を超える得票で一位当選したのは初めてで、

文京の党史上最高の得票でした。また、有力三人でのたたかいで勝利したことも初めてです。歴史的な勝利となりました。

選挙中、私は「命を守る東京」を訴え抜きました。

選挙をたたかうなかでもとりわけ、子育て中の大勢のママ・パパから力強い声援が寄せられるという、劇的な変化が起こりました。

五輪観戦問題でママ・パパの共感広げて

ママ・パパたちの大きな共感を広げた五輪の学校連携観戦問題では、学校ごとの観戦日程を掲載したピラを全戸配布し、一般紙にも折り込んで、十五万枚を活用しました。私が登場する動画も作成して、広く区民へ「五輪観戦動員の中止」を訴えました。動画の再生回数はアップした六月十一日から二十三日までに一万回に達し、区には保護者などから「中止」を求める声（個人メール十四通、一団体、四十名の連名の陳情）が寄せ

られました。また、六団体が中止の陳情を出し、私も党区議団と中止の申し入れをおこないました。教育委員会は党区議団と私が申し入れた六月二十三日、「コロナ感染、熱中症の不安が拭えないことから、幼児・児童・生徒の安全を第一に考え」観戦動員の中止を表明しました。中止を求める保護者や区民の良識が区政を動かしたのです。

このことを契機に、私の訴えに共感と期待がさらに広がり、街頭の反応がどんどん変わっていくことを実感しました。

また、私が掲げた選挙公約「都立病院の独法化ストップ」、「ジェンダー平等の東京を」にも、共感が広がりました。

独法化中止に賛同する立憲民主党の松尾あきひろ衆院議員とも署名活動を共同でとりくんできました。前回都議選の公約「大塚都バス車庫跡地の福祉活用」の実現で力合わせた立憲、無所属、共産の十一人の現・元区議との信頼関係

はさらに深まり、この力で勝利のために全力を尽くしたことが、私を一位当選に押し上げました。多くの市民の支援を得てのピラ配布、音出し宣伝を前回以上にやり切ることができ、支部は支持拡大・対話に重点を置いた活動に全力をあげることができました。対決構図と争点が明確だったことは、対話を進めやすい条件でもありました。

自民現職を打ち破った結果は、命より五輪を優先し、コロナ対策に無為無策の菅自公政権に対する審判が下されたものです。

選挙を終えて二人区文京での勝利が全国を励ましていることを実感しています。この勝利は秋の衆院選での躍進に必ずつなげていかなくなくてはなりません。市民と野党の共闘の前進と日本共産党の躍進に向けて、新都議団の一員としてたたかいた先頭に立つてがんばります。

（ふくで・ゆうこ）

公約実現、総選挙勝利へ

五輪、カジノなど都政の焦点が集中する激戦区で

江東区選出

あぜ上三和子



このたびの都議選は、コロナ禍のもと都民の命と暮らしがかかった大事な選挙でした。多くの方のご支援をいただくとともに、若い世代の方がたとのユニークな街角トークやSNSのフル活用、障害者後援会と独自ピラを作ったの街頭宣伝など、多彩なとりくみと、みなさんの頑張りに私自身励まされながらのたたかいです。

また、元日弁連会長の宇都宮健児弁護士にはたくさんの応援演説をしていただき、感激でした。大変難しく厳しい選挙ではありましたが、自民党二議席を許さず、前回比得票率で二・四八倍伸ばし、三

比得票率で二・四八倍伸ばし、三

位当選を果たすことができました。まさに、みなさんと勝ち取った議席です。

内外の大丈夫論とのたたかいてもありましたが、みなさんの頑張りやジワジワと街のなかに政治的条件を広げていることが実感できた選挙でもありました。

江東区は、五輪の競技会場が十カ所もあり、ラストマイル（競技会場と最寄り駅とをつなぐ移動手段・経路）や駐車場整備も着々と進められている様子がみえるなかで、どのような訴えが心に届くかと悩みながら演説してきました。

時には、会場警備員の目前で演説

することもあり、いま政治が本気でコロナを収束させるために何をすべきかという角度で、丁寧に演説してきました。

五輪問題以外にも都政の焦点が

都立墨東病院の問題もジェンダー平等の問題等も、私の議会内外の運動や区議一期目の自分の出産時に「税金泥棒」と言われたことなどの経験も含めて語り、自分などのような政治をめざしているのかを語るようにしてきました。最終盤には、「五輪より命」の演説にはバス停で待つ方がたから拍手が起こり、「ジェンダー平等の東京を」との演説に若い女性たちからの声援も増え、七夕の短冊に記された子どもたちの思いなどを語ると、小学生の子どもたちからたくさん声援もありました。

また江東区はカジノ誘致の候補地とされていますが、人の不幸を土台にして、経済を活性化するカジノは間違いです。私は、カジノ

は間違いです。私は、カジノ

誘致をきっぱり断念させ、生活を豊かにする公共整備を充実させるべきだと訴えました。

高層マンションの新住民の多い臨海部では、ロングラン宣伝やシール投票などをおこない、「カジノ誘致検討の最有力候補地が江東区」のピラを八万枚配布するなどして、「カジノ誘致より保健所や子ども遊べる公園を」という徹底した宣伝も大きな力になりました。

さらに「十五歳までの医療費無料化の生みの親。さらに十八歳まで」と訴えてきました。

今後は、こうした公約の実現に全力尽くします。日本共産党都議団の十九議席は、立民や無所属などと合わせると三十八議席となります。野党第一党の力をフルに生かす。都政のチェック機能や議案提議など、都民、区民のみならずから寄せられた大きな期待をしっかりと受け止め、役割を果たせるよう頑張ります。

（あぜがみ・みわこ）

公約実現、総選挙勝利へ

「羽田新ルートは止めて」の声を受け止めて

品川区選出 白石たみお



「命とくらしがかかった都議選」で品川選挙区は、四つの議席を五人が三五〇票以内ひしめき合う、文字どおり横一線の大激戦区となりました。

許さない」など、夜間定時制で多様な仲間とともに学んだ経験を力に、痛みがわかる。だからたまたかうを政治スローガンに、「命とくらし最優先の政治を実現しよう」と訴え拔きました。

羽田新ルート問題で寄せられた不安の声

そのなかで、私は二万五五二人の方から支持を得て、得票率も順位も四年前を上回り、三期目の当選を果たすことができました。改めて昼夜を分かたず支持を広げ、応援していただいたみなさんに、心より敬意と感謝を申し上げます。

選挙戦では「五輪を中止しコロナ対策に全力集中を」、「住民の命とくらしを犠牲にする羽田新ルートを止める」、「夜間定時制廃止を

とりわけ羽田新ルート問題です。羽田新ルートとは羽田空港の国際便を増やすために国が運用を開始した新しい離着陸ルートですが、品川区をはじめ東京都心や川崎市の上空を旅客機が低空飛行するため、騒音被害や事故、落下物の危険があり、品川区だけではな

く新ルート下の住民が反対運動に立ち上がっています。住民や航空業界の方から連日のように次つぎ、新ルートの危険性の指摘や「止めてほしい」という声が寄せられました。たとえば、「兄がパイロットで、伝言を頼まれた」という方からは、「パイロットとしても、市街地を低空で飛行する羽田新ルートは恐怖。方針だから飛ぶしかないが、万が一のことを考えて飛行するのがパイロット。以前の海上ルートに戻してほしい。だから応援する」との声を伝えていただきました。羽田空港に勤める職員の方からも、同様の訴えがありました。

さらに、「私は公明党员です」と声をかけてくれた方は、「羽田問題では「大臣に掛け合っている」と言っていますが、区民の民意を測るために提案した区民投票条例に公明党が反対したことを知っている。だから今回は家族で「白石たみお」に入れます！」と激励してくれました。街頭でも地

域への電話かけでも大きな反響があり、これまで以上に幅広い方から応援をいただきました。

そのことが力となり、第一党の自民党も第二党の都民ファーストも、品川選挙区では一つも議席を得ることができないという厳しい審判が下されました。選挙結果は、「羽田新ルートを止めてほしい」という区民の民意が明確に示されたことに他なりません。

この結果を力に、新たに十九人に前進した日本共産党都議団が一丸となり、都議選で掲げた公約実現と総選挙での躍進、国政変革のために全力を尽くす決意です。

(しらいし・たみお)

公約実現、総選挙勝利へ

大丈夫論のなか、思いを伝える工夫尽くす

大田区選出 藤田りょうこ



この四年間は「命とくらしを守る政治に」をスローガンに活動し、とりわけこの一年は、コロナ対策に力を入れてきました。

今回の都議選ではまさに、「命を守る」という日本共産党の存在感を大いに示し、多くの市民と願いを共有できた場になったと感じています。

のつけから「大丈夫論」が問題となりました。一方、大田区の半分の地域では私は新人同様。しかも、この一年間はコロナの対応のためあらゆる集まりができず、訪問も控え、加えて私自身も臨時議会等でまったく地域に入れず、選挙に対しては大変な危機感がありました。そういうなかで、本当に多くの方に支えられた選挙でした。

支えてくれた勝手連

大田区では定数が一つ減るなかでの都議選となり、今回は二人立てることは厳しいと判断し、昨年十月に共産党の候補者を現職一人にする決めました。そのため、

表現力を支えてくれたのが、勝

手連のみなさんです。今回もすてきなバナナやPVで盛り上げてくださいました。さらに、地域の集まりでSNS講座を開き、スマホの扱いに慣れていない方たちにも丁寧に「リツイート」の方法などを伝え、拡散力のアップにも貢献してくれました。「街角トーク」も好評でした。本当にありがとうございます！本気で政治を変え

てくれたのが「MP3」という音声データです。都委員会が更新する流しスボットを、私が自宅や控室で録音し、地区委員会経由で支部に送付をくりかえしていただきました。支部のみなさんに宣伝カード大田区を回っていただいたり、ハンドマイクを自転車に積んで走らせたり、辻々で藤田りょうこの声を流していただきました。私には「今、藤田さん、〇〇のあたりで話していましたか？」と頻繁にメールなどがあり、効果抜群！と感じていました。さらに、音を流している方に対して「あなたが藤田さん？」と声をかけられた、という方もいらっしゃいました。

(ふじた・りょうこ)

公約実現、総選挙勝利へ

貧困の広がり、政治の責任を問いかける

世田谷区選出

里吉ゆみ



「今回初めて、共産党に入れま...」

期待の声を寄せていただきました...」

「五輪は中止」の願い

演説をしていると、怖い顔をし...」

一年以上続くコロナ禍で、商売...」

世田谷では今回初めてまんなか...」

「五輪より命、くらしを守る都...」

公約実現、総選挙勝利へ

ツイッターで協力呼びかけ、ミニビラ配布、トーク宣伝も力に

杉並区選出

原田あきら



四年前の都議選の私のスローガ...」

宣伝カー三カ月毎日回し

土崩落事件でも話題となっ...」

ふだん無口で控えめな私です...」

私が杉並の現職都議の中で断突ト...」

「コロナの危機から希望の政治...」

「初めて都政のひどさがわかった...」

私の質問を掘り起こし、質問回数...」

また、青年ととりくんだトーク...」

「コロナの危機から希望の政治...」

公約実現、総選挙勝利へ

性暴力根絶、ジェンダー平等をの訴えに共感広がる

豊島区選出

米倉春奈



七月四日投票の都議会議員選挙で、三期目、当選させていただき... さん、コロナ禍のもと奮闘して...

民党にも公明党にも投票したくない、どうしよう」と、私の演説を聞きに来てくださいました...

力を合わせたとりくみが豊かな経験に

訴えれば訴えるほど、共感と応援が広がりました。「五輪を中止し、コロナ収束に全力を」...

多くの市民のみなさんが応援に駆けつけてくださったのも、これまでの選挙とは違いました...

「ジェンダー平等社会へ、痴漢をはじめ性暴力をなくそう」という訴えへの反響は、選挙区を超えて広がりました...

ジェンダー平等や性暴力をなくすことに、さらに力を入れたいと思います。豊島区での野党共闘も前に進みました...

公約実現、総選挙勝利へ

共闘の議席を守った力で、今度は国政革新へ

北区選出

そねはじめ



私は今回、三人区になって二回目、都議選をたたかい、前回より得票率を伸ばして第二位で激戦を勝ち抜くことができました...

趣味の切り絵の紹介動画まで試みました。新しい広がりが実感でき、今後もチャレンジします。

ハガキを引き受けてくれたり、告示前は私のパンフレットを一人で千五百部とか二千部とか地域で配布していただきました...

六月二十七日、区内の高校三年生から「都民の意見なんて聞かずに、五輪を開催しようとしている暴挙を許してよいのでしょうか。絶対に五輪開催を止めてください。今回の都議選は僕にとつて初めての選挙になります...

後、地元のみなさんはもちろん、党内外の知人や都議団の調査活動でお世話になった専門家のみなさんからも、多くの激励やお祝い便りをいただきました...

私は今回初めて、本格的にSNS活用の選挙にとりくみ、毎日ツイッターを更新し、日々の活動後の感想を動画配信しました...

今回は、立憲民主党、新社会党、市民団体「みんなで選挙@東京12区」などのみなさんからご支援を受け、市民と野党の共闘でたたかうことができました...

「五輪は中止しコロナ対策に集中を」の訴えは、党派を超えて大きな共感を広げました。都立病院の独立行政法人化についても厳しく批判し、「都立直営で守れ」の訴えも共感を呼びました...

私は選挙中に訴えた、都営住宅の臨時提供と新規建設、ジェンダー平等をめざす立場でパートナーシップ制度や選択的夫婦別姓の提案、若者・学生の生活支援、女子生徒の生理用品の学校での配備など、公約の実現に全力を尽くします。

公約実現、総選挙勝利へ

「命を守り抜く政治の実現を」の訴えを貫く

板橋区選出 とくとめ道信



コロナ災害の中で、各党とも生き残りかけた当落線上の大激戦、大接戦になり、オリンピック中止、コロナ対策など、「命を守りぬく政治」を、党の値打ち・役割を訴えぬいて、三期目の当選を果たすことができました。

小池都政の科学無視のコロナ対策や、コロナ災害による生活困難や中小企業の営業損出への支援と補償の立ち遅れに、怒り不満が噴出しています。さらにコロナ感染拡大中にオリンピック開催にこだわる菅内閣・小池都政に対して、命を粗末にする姿勢に都民の怒り

が拡大しています。

私は、「憲法を生かし、命・くらしを守りぬき、今夏のオリンピックは中止、コロナ対策に全力集中」を掲げて訴え抜きました。選挙でこんなにも「命とくらし」を中心に、一貫して訴え抜いたのは初めての経験でした。

公的病院の拠点であり、コロナ災害で都民の命を守る宝である板橋区内の豊島病院はじめ、十四カ所の都立病院と公社病院を、小池知事と自民、公明、都ファーストなどが、「独立行政法人化」の名で五百億円の補助を削減、採算抜

きで頑張る行政的治療を切り捨て、もうけ優先の病院にする計画も大きな争点になり、わが党だけが厳しい批判を展開しました。そこには、一年半に及ぶコロナ災害によって、都民の命とくらしが破壊され、深刻化している実態があると思えました。

国政への怒り保守の方にも

私は、百五歳で亡くなった母のおしえである「世のため人のために頑張れ」を原点にすえて、都議選勝利から総選挙躍進につなげた活動しました。

国政の激変の情勢は、広範な都民のなかで、菅政権のコロナ対策への無為無策、政治の私物化・強権政治への怒りがわきあがり、自民党支持や保守の方も、厳しい自民党への批判を寄せ、日本共産党への信頼を表明してくれました。

駐輪場で働く知人は、元自民党幹事長の加藤紘一氏と同級生です

(とくとめ・みちのお)

公約実現、総選挙勝利へ

定数増でも大激戦、これまでにない知恵と工夫で

練馬区選出 とや英津子



大激戦の選挙を一緒にたたかい抜いてくださったみなさん、ご支援いただいたみなさんに心からのお礼を申し上げます。

コロナ感染が広がりにわたる自粛で亡くなり、一年半にわたる自粛で女性や学生、文化・芸術関係者からは怒りの声、事業者からは収入が減っているのに協礼金も支給されず困り果てての相談が寄せられてきました。今回ほど政治の役割の大切さを深く考えさせられた選挙はありませんでした。

コロナ禍での選挙に加え、練馬は唯一の定数増となった選挙区で

す。有力候補が集中する一方、最後まで衆観論とのたたかいを強いられる難しい選挙でした。

大激戦を勝ち抜けたのは、支部の大奮闘と後援会のみなさんを中心に、これまでにない知恵と工夫があったからこそでした。

ミニピラは商店街向けをはじめ、都営住宅版、地域特有の課題であるまちづくりにしほったものなど六種類発行しました。SNSでの動画配信や、初めて挑戦したLINE公式は遅れての立ち上げでしたが、内容が評判になり期限がきていた日曜版読者が引き続き

購読を約束してくれるなどの成果も生まれました。Zoomを使ったオンラインのつどいも何回か開きました。

女性後援会や保育後援会などのリレートーク、野党共闘でのジェンダートークを実現することができ、今後につながる新しいとりくみがありました。

補聴器補助へ期待

最大の争点であるオリンピック問題では「はつきりと五輪中止を言っているのはあなたただだ」と言ってくれる人も多く、子どもをオリンピックに動員するのはやめるべきだとの訴えは子育て世代に響き、演説中やツイッター上でもメッセージが寄せられました。

三十五人学級を三十年越しの運動で実らせてきた訴えをはじめ、練馬では補聴器購入の支援が七月から実現し、政策ピラを見た方からの電話も相次ぎ、区民の期待を

が、激戦の選挙情勢を伝えたところ、初めて選挙で支持拡大してくれ、家族・友人・知人など三十五人へ支持を広げてくれました。元都議会自民党副幹事長の方は、野党共同の前進のためにと、候補者ピラで支持を表明、ポスター掲示にも協力してくれました。元公明党区議会議員も、憲法を一番よく守って活動していると新聞紙上で支持表明、ポスター掲示も協力しました。

街頭、駅頭で私の演説を遠くで見守る人ほど、共産党への期待の声が多く、「自民党を倒してください」。もう共産党しかない、「オリンピックを中止させて」、「子ども参加員はやめさせてほしい。誰が責任を取れるのか」、「野党共闘は、もう共産党が伸びるしかない」など、情勢の変化を実感しました。これを総選挙での躍進につなげていきます。

また都営住宅問題は選挙期間中にも相談が寄せられるなど、安心して住める公営住宅や家賃補助への期待は大きいものがありました。

練馬では羽田新ルートや再開発、道路計画、都による「としまえん」の跡地活用でも一定の関心が集まりました。この四年間、住民のみなさんと一緒に運動をしてきたことが、結果にもつながると確信しています。

街頭では、とりわけ女性がピラを受け取ってくれたと感じています。選挙後に駅で声をかけてくれた若い女性は、私のジェンダー平等の訴えに共感して投票してくれました。まさに共産党の政策が都民の願いとかみ合っていることを実感した選挙でした。

新しい期がはじまります。十九人の都議団の一人として公約実現に力をつくします。

(とや・えつこ)

公約実現、総選挙勝利へ

五輪ではなく子どもたちの安全が最優先の都政へ

足立区選出 斉藤まりこ



「学校連携観戦を（足立区で）止めてくれてありがとう。オリンピックよりも、早く修学旅行にい

つも通りに行けるようにしてほしいです」。選挙戦の最終盤の駅頭で小学六年生の女の子が、私のチラシを受け取って、そう言ってくれました。ほかにもお母さんと一緒に足を止めて演説を聞いてくれた小学四年生の女の子が、自分はまだ投票権がないことを知って、お礼だけでも伝えたいと、追いかけてくれて、コロナに感染しちゃうんじゃないかと心配だったことや、学校連携観戦がなくなっ

て安心したことなど、話してくれました。都内で約九十万人も児童・生徒たちを五輪の観戦に連れていく学校連携観戦について、保護者や教員の方々からも、多くの不安や批判の声が上がりました。「子どもたちをコロナ感染の危険にさらさないでほしい」、「子どもたちはいろんなことを我慢しているのに、五輪よりも早く日常を取り戻してほしい」、また下見に参加した教員からも「炎天下でこの距離を歩くのは無理だと感じた」、「子どもの安全は守れない」など、切

実な声があがっていました。五月末の都議会文教委員会での質疑で浮き彫りになったのは、当事者の声さえ聞かずに、安全対策の具体化もないままに、開催ありきの五輪の観戦に子どもたちを巻き込むうとする無責任な東京都の姿でした。

モノ言わさぬ空気の中での希望

私は子どもたちの安全を最優先に守るために、足立区に対して、区議団とともに中止を求めました。こうしたとりのくみのなか、ふだんは政治の話はなかなかすることがない子育て世代の周りの方々からも、「中止にしてほしい」、「がんばって」と声が寄せられるようになりました。「テレビを見ていても、与党も何も言わない。五輪中止を訴えてくれてうれしい」という声も寄せられました。五輪よりも命が大事、という

な計画はただちに中止させまじょうと、つよく訴えました。SNSで私の演説箇所をチェックして聞きに来る親子や、雨の中で傘をさしたままずっと最後まで真剣に聞いてくれた小学校高学年の女の子、車の窓を開け、手を振ってくれる父と子等々、日に日に子育て世代の共感が広がっていくのがわかりました。

駅頭で「あなた、ご本人？」と話しかけてきた高齢男性は、「六十年来自民党を応援してきたが、今の自民党は腐ってる。共産党が伸びるのが自民党にとっては一番怖い。だから今回はあなたに入れて」と話してくれました。また、五輪中止を訴えているときには、「そうだ！そうだ！テレビを見ていて腹が立って。頑張って」と買

公約実現、総選挙勝利へ

学校連携観戦中止を訴え、子育て世代の共感集める

葛飾区選出 和泉なおみ



広がりました。

七月四日投票開票の都議会議員選挙で二万四四九八票を得て、三期目の当選を果たすことができました。

今回の選挙は、「コロナから都民のいのちと暮らしを守る政治を実現できるのは、どの政党か」、「いのちと暮らしを守るためにも五輪中止の決断ができるか」が問われた選挙でした。

この選挙戦を通じて強く印象に残っているのは、演説に聞き入る若い親たち、子どもたちの姿です。

選挙告示を目前に、五輪開催をめぐる大問題として浮上した子ども学校連携観戦の問題は、知らない保護者も多く、大きな反響が

子どもたちを感染リスクにさらす無謀を許さず

学校連携観戦とは、東京都内の公立・私立幼稚園から高校、特別支援学校などの園児や生徒の約八割にあたる約八十一万人に東京五輪・パラリンピック競技を観戦させるという東京都の計画です。新型コロナウイルス感染拡大前に立てられたこんな計画が、コロナ禍でもそのまま強行されようとしていることが「しんぶん赤旗」の調べで明らかになりました。

私は選挙戦のなかで、独自の感染対策もなく、ワクチン未接種の子どもたちをリスクにさらす無謀

議団は野党第一党を維持しました。議席が増えれば質問時間も増え、議員それぞれの政治テーマをより幅広く取り上げて質問することができま

また、立憲民主党と合わせると三十四議席となり、都議会定数の四分の一を超えるため、議会招集権も行使できます。これまでのように、議会を開かず、議決なき専決処分を繰り返すことは、もうさせません。議会が、都政をチェックする役割をしっかりと果たすために、都民のためにこそ働く議会へと転換させるために、十九人になった

都議団が果たす役割は重大です。全国のみなさんとともに勝ち取った躍進を活かし、「安心と希望の政治」の実現のために、そして「都民に開かれた議会」に変えるために、団結して頑張ります。

そして、いよいよ総選挙です。今度は一緒に、国の政治を変えてまいります。

全国のみなさんと心ひとつに、野党連合政権の樹立をめざし都議団も奮闘する決意です。一緒に頑張ります。 (いずみ・なおみ)

公約実現、総選挙勝利へ

区民アンケートを政策化、要求実現を第一にして

江戸川区選出 原 純子



河野ゆりえ都議の議席を引き継ぐという重責を果たすべく、練馬区から江戸川区に転居しての立候補でした。無名の私を、最後は自民の新人に二百四十三票差で競り勝つところまで押し上げた力は、

コロナ禍での活動でした。宣伝や訪問も思うようにできないなかでも、コロナで困っている方の相談のつたり、支援制度につないだり、やることはたくさんありました。

党支部と後援会の猛烈な頑張りでした。「河野さんの議席を途絶えさせてはならない」という思いで、投票箱の蓋が閉まるまで必死のとりくみをおこなった結果です。深夜零時頃、ようやく当確が出たときの喜びは、生涯忘れないと思います。

候補者活動の期間のほとんどは

昨年五月に共産党江戸川区議団がとりくんだ区民アンケートには、二千通以上の返信があり、区民の願いが手に取るようにわかり、政策づくりに役立ちました。江戸川区は大河川と東京湾に囲まれており、多くがゼロメートル地帯。一昨年、台風19号で三万五千人の区民が避難した経験からも災

害対策への要望と、医療充実の願いが強いことがわかりました。また、子育ての不安なども自由記入欄にびっしり書かれていました。選挙では、「五輪より命優先」、「都立墨東病院の独立行政法人化中止」、「三十五人学級の即時実施」、「だれも取り残さない災害に強い街・人権守れる東京」を公約として論戦を繰り広げました。

都立病院守る一議席

私は障害児の療育に携わっていたので、都立墨東病院にある「障害者歯科」が、神経過敏な子どもに時間をかけて寄り添い虫歯治療などをおこなうことを知っていました。演説などでその話を紹介したところ、「不採算だけれども大事な診療分野があることがわかる、原さんならではのエピソード」と、反響を呼びました。選挙区内では墨東病院独法化反対の候補は私一人。議席を得て、命守る

をやって「コロナ対策を」「ジェンダー平等」などの訴えに耳を傾ける人が増えていきました。コロナ禍が多くの人に困難をもたらしており、あらゆる機会を奪われ、収入も奪われている多くの方々から「どうやったら解決するのか」という真剣なまなざしを感じました。

都政に転換させなければと、必死の思いで訴えました。選挙本番は、宣伝箇所をSNS告知を徹底したことで、駅頭には「手伝いたい」という青年が現れ、「演説を聞きたい」と子連れで来てくださる方もいました。また、各所でのサポーターによる心のこもった応援スピーチも共感を広げました。動画活用も重視し、二分のショートムービーは二万八千回、閲覧されました。演説のツイキャス配信やトーク番組では原サポ（原純子サポーターズ@江戸川）が大活躍！紙媒体での「江戸川経験交流ニュース」も毎日発行され、支部や後援会が「折り入って作戦」に果敢にとりくんでいる様子が共有され、私もとても励みになりました。

みんなの力で得た宝の議席！公約実現のため、力いっぱいがんばります。（はら・じゅんこ）

公約実現、総選挙勝利へ

住民の命を守るかけがえのない議席を引き継ぐ

八王子市選出 アオヤギ有希子



六期二十四年、市民の声を届け続け、「都立八王子小児病院を守れ」「多摩格差解消」を求め、八王子市民、多摩地域の住民の命を守ってきた、かけがえのない清水ひで子さんの議席をなくしてはならないという思いで、私は昨年十二月に、八王子市議を辞して都議選へ立候補することを決意し、議席を引き継ぐことができました。

短い期間で、「清水都議の後継者」であることを浸透させるのは容易なことではありませんでしたが、支部のみならず訪問行動をしながら対話続けるなかでは、これまで自民党の支持者だった人が、初めて「しんぶん赤旗」を購入される経験もありました。

私は、三月の最後の市議会での「生理の貧困」「新生児の十万円の給付金の延長」「学校体育館エアコン設置の遅れ」などを取り上げました。前者の二つの課題は実現できましたが、エアコン設置は百七校の小中学校のうち六校のみにとどまっています。これらの問題では女性後援会のみならずとも市に要望書を提出し、広く市民に知らせてきました。この行動がきっかけとなり、都議選での公約の柱の一つになりました。

やさしい言葉、SNS動画で

選挙戦が近づくと、「五輪より命が大事」「子どもたちの動員

をやめて」「コロナ対策を」「ジェンダー平等」などの訴えに耳を傾ける人が増えていきました。コロナ禍が多くの人に困難をもたらしており、あらゆる機会を奪われ、収入も奪われている多くの方々から「どうやったら解決するのか」という真剣なまなざしを感じました。

子どもたちが演説を聞いてくれた時は、「やってほしいことありますか？」と聞くと、「オリンピック行きたくない」「修学旅行行きたい（行きたかった）」「〇〇小学校の体育館にエアコンを」「日本は医療体制が十分じゃない」など、しっかりした答えが寄せられました。子どもの聴衆のために、やさしい言葉で「オリンピックにはあなたたちには危ないから連れていけない」と演説していると、突然遠くのマンションの窓が開いて女性が激しく手を振ってくれるなど、分かりやすく話すとおとなの耳にも入るのだと実感しました。

また、ジェンダー平等を求める演説の時に大学生の列の女性たち

から手ふりを受けるなど、切実な要求であることがわかりました。SNSでの動画も威力を発揮し、ピラも見たことがない、電話もない人にも伝えたいことを伝えることができました。内容は私の市議時代の実績や、出会った声、政策、自分の人となりがわかるものになった動画をつくってもらい、この動画を公開した次の日から、街の反応が大きく変わるのを感じました。動画や写真を撮る方が現れ、障害者施設の方からの手ぶり、私の同世代四十代前後の方が「初めて共産党に入れようと思う」と言われるなど、これまで知り合ったことのない方々と知り合い、自分が選択肢に入って行くのがわかりました。

同時に選挙戦最終盤、支部のみならず、電話がつながらない方への訪問をおこなって支持拡大を一気に積み上げていったことが勝利の大きな決め手になりました。寄せられた声を届け、多摩格差解消をめざし、公約を実現するため、全力で頑張ります。（あおやぎ・ゆきこ）

公約実現、総選挙勝利へ

「あなたの困ったから始める」と訴えて

町田市選出 池川友一



高校生から人生初投票の思いを託され

「家族や友人にも広めた上で、投票させていただきました」――十八歳、人生初投票だった高校生からのメッセージです。

その高校生は、何度か演説を聞きに来てくれ、他の候補者の演説も聞きに言ったと話していました。自ら候補者や応援弁士の演説を聞き、投票先を決める……。民主主義ってこういうものだと感じました。安保法制のたたかひのとき、SEALDsが「言うこと聞

かせる番だ俺たちが」とコールをしていましたが、それを思い出ししました。この高校生が、私に託してくれた思いは何か――。

「去年の修学旅行は潰れ、今年の高校最後の文化祭も通常通りできないのに、五輪観戦はおこなう。正直憤りを超えて悔しさすら感じる。今まで作れなかつた分一つでも多くの学校での思い出をつくれるようにしてほしい」

こうした思いが私への一票に託されました。しかも、初投票の高校生が家族や友人にも、広げてくれていたのです。

これ以外にも、校則や学校内民主主義などに関わってきた高校生が、自分ごととして投票を見守ってくれ、当確が出た直後から「おめでとう」「嬉しい！」「これから応援する」など、いくつもメッセージを寄せていただきました。

「声をあげれば政治は変わる」を感じられる都政に

「あなたの困った」という声からはじめる。それが政治――都議選では最初から最後までこのことを訴えました。

池川友一勝手連「Uピース」のプラスターを見て、「少年数学級や中学校給食など、一つひとつ、目のつけどころがいいですね。身内は自民系だけど、こういう視点は無いんで。チラシもよく読んでみます」といった声も寄せられました。一人ひとりの声を政策にしていくことが本当に大切だと感じています。

最終盤に、ある耳鼻科のお医者

る」と感動を呼びました。

四月の市長選で共同が大きく発展

昨年の都議補欠選挙で生まれた市民と野党の共同をさらに発展させたのが、四月の市長選挙でした。

日野市の元副市長らをめぐる汚職と税金の私物化は、区画整理事業だけでなく、保育園民営化などさまざま分野に及んでいること、現市長も関与していた事実が明らかになってきました。この疑惑の全容解明とクリーンな市政を求める声は、「野党」の枠を超えて保守層まで広がりました。市長選挙では、疑惑解明の先頭にたった有賀精一さん（前無所属・市民派市議）が現職市長を僅差まで追い詰めました。

市長選挙で悔しい思いをした市民のみならず、全容解明のために清水候補を都政へ送ろう」と、有賀さんを共同代表とした「市民応援団」を立ち上げ、独自

さんが演説を聞きに来てくださいました。「患者さんの中には、補聴器が必要な人がいる。でも、高くて買えないと言われたら支援につながらない。補聴器購入費助成制度という、池川さんの政策に注目している」とエールを送ってくださいました。都政が動けば、市民の暮らしはグッと良くなります。市民のみならずとも、困った」という声からはじめる都政に変えるために力をつくしていきます。

「声をあげれば、政治は変わる」変える力は、一人ひとりの手の中にある――これも、一貫して訴えてきたことです。今回の都議選、どのPIECEが欠けても二期目には駆け上がられません。得られた経験を確信に、足らざるところを教訓にして、暮らしに役立つ都政に変えるためがんばります。

（いけがわ・ゆういち）

に事務所を構え、宣伝カーやスタンディング、チラシの作成配布と、ものすごい力を発揮してくれました。

さっそく日野市の疑惑解明へ相談

私の議席は、市民と野党の共同の議席です。さっそく、有賀さんたちと、日野市の疑惑解明のために聞き取りや質問をどうするか、相談を始めました。

日野の保健所の復活、若者への家賃補助、補聴器購入費補助、シルバーパスの改善、ミニバスの拡充など、公約実現にとりくむとともに、少しでも都政が身近になるように、進捗状況の報告や交流の機会を定期的に持つていきたいと思えます。

そして、来るべき総選挙でも、市民と野党の共同で勝利するため全力を尽くします。

（しみず・としこ）

公約実現、総選挙勝利へ

市長選で発展した共同を力に、2人区で勝利の議席

日野市選出 清水としこ



二人区の日野市で激戦を勝ち抜けたのは、市民と野党の共同の力と、全党の力の総結集のおかげです。

自民党と都民ファーストの会の現職に挑む三つどもえの選挙戦で、前回より四九二五票伸ばし、二位（二万五〇〇票）で当選することができました（落選は自民現職・一万八四五八票）。

告示日、「市民応援団」主催の第一声には日本共産党田村貴昭衆院議員をはじめ、立憲民主党川田龍平参院議員、社民党伊地智恭子都連幹事長、新社会党橋幸英都書記長、市長選で健闘された有賀精

「あなたには絶対に勝ってほしい」と思っていた」と当選の報告を喜んでくれました。伊地智さんの演説は「人の応援じゃなくて、自分の選挙としてこの都議選をたたかっていくのが伝わって

「市民応援団」を立ち上げ、独自

公約実現、総選挙勝利へ

命・暮らし・営業を守る
都政の実現めざす

北多摩第一区選出 尾崎あや子



北多摩第一区（東村山市・東大和市・武蔵村山市）は定数三です。現職三人（都民ファースト・公明党・共産党）に元職の自民党、新人の立憲民主党、有力候補五人の大激戦のなかで、最後まで「オリンピックより命が大事」「命を守る都政に変えよう」と訴えま

た。多くの方々に支えていただき、三期目も勝ち抜くことが出来たと実感しています（結果は現職三人が当選）。街頭で訴えていると「家族でチケットも購入し、オリンピックを楽しみにしていた。話を聞いて、

中小業者の営業と暮らしを守る

私は都議になる前、中小業者の営業と暮らしを守る運動に携わっていました。コロナ危機のなかで「もう限界」「商売を続けるための支援よりも生きることへの支援が必要」「政治は一体、何をしているのか」の怒りの声、悲鳴に聴きたい。「大好きな商売をコロナの影響でつぶすわけにはいかない。どうしても都議会で働きたい」と決意を新たにしました。

多摩北部医療センター（公社病院）拡充へ

都民の命をないがしろにし、稼げる病院にする都立病院・公社病院の独立行政法人化には反対。東村山市にある公社病院多摩北部医療センターを守ろうと訴えま

た。石原都政のもと十六あった都立病院が半分にされ、都立清瀬小児

病院も廃止されました。この時、「清瀬小児病院で子どもの命、助けてもらった」と大きな世論が広がり、都は代替施設として多摩北部医療センターの小児科を拡充しました。

私は、「市民のみなさんが拡充した小児科をなくすわけにいかない」と同時に、多摩北部医療センターを市民の要望がかなうよう拡充したいと思っています。

東村山市内には、分娩施設がなくなってしまう。若い方たちから、「自宅のそばで出産したい。多摩北部医療センターに産科をつくってほしい」の要望が増えています。赤ちゃんを抱っこしたお母さんが駆け寄ってきて、「病院を守ると聞いて、会いたかった。これまで政治には無関心だった」と声をかけてくれました。この思いに伝えるため、全力で頑張る決意です。（おさき・あやこ）

公約実現、総選挙勝利へ

「市民の力はすごい！」、
市民と野党の共同候補
として

北多摩第四区選出

原のり子



四年前、定数二の北多摩四区（清瀬市・東久留米市）で十六年ぶりの議席を獲得。今回は、地域初の連続当選をかちとることができました。「やはり市民の力はすごい！」というのが実感です。

定数二に対し、都ファの現職、自民の新人、私が候補者。私は、唯一の立憲野党の候補者ということで、清瀬・東久留米の両市民連合が支援を決定。社民党と緑の党が推薦、無所属の市議も応援してくださいました。市民連合が主催の街頭演説には、立憲民主党の塩村あやか参議院議員も駆けつけてくださいました。選挙が進むにつれ、共同の輪が広がっていきま

した。カギは、やはり市民です。市民のみなさんのねばりづよい運動があり、切実な要求があるからこそ、幅広い野党の共同もつくられたのだと思います。社民党の推薦書には、知的障害者が都庁の正規職員として採用されるように皆さんととりくんでいただくことに触れ、こういう姿勢だから応援するとありました。中身で共同できることに感動しました。

まさに「市民選挙」

選挙戦は、まさに「市民選挙」。市民連合をはじめ、民主団体のみなさんが、「選挙に参加しよう」

「投票に行こう」という呼びかけを重視。そして、それぞれの要求を掲げてのリレートークやスタンディングも何度もおこなわれました。私もたくさん市民弁士のみなさんと一緒にスピーチ。できる限り、ブログでも市民のスピーチを紹介しました。

「四年前の選挙では、誰が出ていたかも覚えていない」という方が、自主的に要求プラカードもつくって朝の駅頭に毎日たったり、子育て世代の多い地域への宣伝をおこなったり、ズームでの「都議会議員になんでも聞こう会」をやってくれました。また、地域でLGBTQの活動をする方を中心に、一日も早くパートナーシップ制度実現を、とジェンダートークやズームでの懇談会をおこないました。

「わた原ずつと応援隊」（わたし誰がなんといつても原さんをずつと応援し隊）というゆるやかな勝手連もつくられ、「なぜ応援する気になったのか」「原のり子さんの盛りだくさんの「人間力」を

伝えるという「わた原応援隊ベーパーツイッター」（冊子）も作成するなどして、一緒にとりくんでくれました。

希望をもって生きられる社会へ

選挙最終盤で重要だったのは、二回の個人演説会です。ここで交流した内容を最終の演説に生かしました。大学のそばでフードバンクにとりくんでいる若者のみなさんが、精神的にも経済的にも追い詰められている学生の実態を伝えてくれました。アンケートのまとめを読み、涙が止まりませんでした。五輪よりも、一日も早く日常を取り戻し、みんなが希望をもって生きられる社会にしていきたいという思いを訴えました。

選挙は総力戦。ここには書ききれない党員・後援会員の地道なとりくみがあってこそその勝利です。

そして、全国からの応援に心から感謝します。都議会活動、そして衆院選に向け頑張ります！（はら・のりこ）